

開催報告

分科会

平成19年度 第1回クリティカルパス実践セミナー in 熊本
 ークリティカルパスの概念・必要性の理解と作成活用能力の向上ー
 大阪府済生会中津病院 副院長・総合診療内科部長 川嶋成乃亮



クリティカルパス作成
 グループワーク風景

平成19年9月12日、13日、国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センターにてクリティカルパス実践セミナーが開催されました。

私は、本年から院内パス運営委員長となったのですが、クリティカルパスに関しては勉強はしたものの、実際に作成に加わったことがありませんでした。

そういうわけで、「新米委員長、しっかり勉強して来い」となり、このセミナーへ他の3人のメンバー（医師、理学療法士、事務）と一緒に参加しました。セミナー初日は[クリティカルパスの現状と展望][クリティカルパスの基本と作成のポイント][電子クリティカルパスの基本][地域連携クリティカルパスの基本]という講義のあと10人のグループに分かれ、翌日に行うクリティカルパス作成のテーマを決めることになりました。私のグループは、循環器の看護師の方が多くおられ、私も元々は循環器医ですので、[合併症を有さない急性心筋梗塞]のクリティカルパスを作成することになりました。そのあとは現在国立病院機構熊本医療センターで使用されている電子クリティカルパスの見学を行いました。我々の施設はいまだ紙カルテですが近い将来電子カルテを導入する予定であり、その場合当然電子クリティカルパスとなると考えられ勉強になりました。そして院内クリティカルパス大会を見学し、初日が終了しました。翌日は決めたテーマで実際にクリティカルパスを作りそれを発表したのですが、多職種のメンバーが、それぞれの立場からわいわいといいながら、クリティカルパスを作成するのは実に面白く、また当然視野も広くなり、かつ効率的にクリティカルパスが作成できました。

我々の施設においても、多くのクリティカルパスがあるものの、クリティカルパスとしての完成度は必ずしも高いとはいえないのが現状であり、運営にも改善するべき面が多く見られ、今回のセミナーを我々の施設でのクリティカルパスの発展、運営に生かしていきたいと思えます。

平成19年度 第1回(通算第8回)医療安全分科会
 テーマ：チームで取り組む医療安全

東京医療保健大学 坂本すが



ロールプレイ風景

1日目はまず福永秀敏先生に「医療安全対策の今後」として

平成19年11月3日、4日と2日間にわたって医療安全分科会が国立国際医療センターで開催されました。定員150名は早々にいっぱいになり、今回も大盛況のうちに終わりました。

さて内容ですが、今年は2日間で2つのテーマで構成しました。

基調講演をいただき、ご自分が作業部会委員長であった経験を踏まえ、国の方針や未来に向けての課題を提言していただきました。初日のテーマは「院内暴力・苦情マネジメントー患者と医療者自身の安全を確保するために」でした。医師をはじめ、大学や病院で活躍する多職種がシンポジストとして報告してくださいました。初日最後は「患者クレームから学ぶ医療事故発生後の家族の説明について」をテーマとしてロールプレイをしました。演者と参加者を交え医療者の姿勢が家族に何を抱かせるのかについて熱く語り合いました。

2日目は「チームで取り組む医療安全」をテーマに医療従事者それぞれの立場から議論がなされました。最後の総合討論も会場からの多岐にわたったご意見、質問をいただき、会場から成果をあげた方法も提示され、会場が一体になった熱気のある一日でした。皆さんのご協力のもと、両日も充実した内容の医療安全分科会になりました。

このような力強い仲間がそれぞれの現場で活躍されている様子を拝見し、日本の医療安全がよい方向に向かっていることを確信しました。皆様に感謝いたします。

開催報告

地方会

第2回宮城地方会

世話人：栗原市立栗原中央病院院長 小泉勝



会場風景

平成19年7月21日(土)、宮城県栗原市栗原文化会館において宮城地方会(会長 櫻井芳明 国立病院機構仙台医療センター名誉院長)の第2回学術総会を世話人 栗原市立栗原中央病院院長 小泉勝で開催しました。一般演題は20題、特別講演Iは「医療の質を保証するためのしくみづくりについて」、医療の質が目的から評価される

との東北大 上原鳴夫教授、特別講演IIは『イキキと働ける職場環境作り「フィッシュ！哲学の導入」』をビデオを併用した東京慈恵医大病院 大木美名子副看護部長のお話でした。いずれも時間の制限がありましたが、参加者の期待以上のexcitingなものでした。シンポジウム「医療安全からみた経口薬の管理」は医師、薬剤師、看護師が演者で行われました。この問題は病院での医療の安全の現在の大きな弱点であり、関心が高く最後まで多くの聴衆が残り、活発な討論が行われました。スタッフを含め220名と地方の町で参加者の多い会を開催できたことを関係者一同感謝しております。

第5回高知県地方会

当番世話人：高知赤十字病院副院長 中村章一郎



会場風景

平成19年8月26日(日)、第5回日本医療マネジメント学会 高知県地方会が「高知市文化プラザかるぼーと」にて開催されました。参加者は年々増加し、今年は291名の参加でした。

一般演題は、医療安全、クリティカルパス、地域連携、